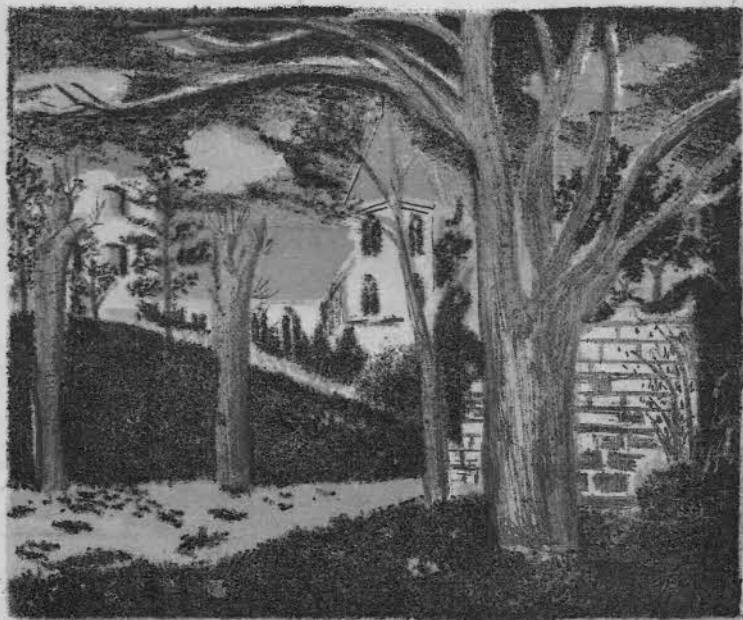


LEON- TODO

N.º 9



1954

con adrearo

MAJO-JUNIO



ENHAVO

El la taglibro dum Marveturado al Ameriko
T. TAKAHASI

Ridindajo -Tablo-
N. HAJKAŬA

Esperanto 60 jara
tradukita de N. ASAHIGA

LETERO EL ĈEHA KAMARADO
A. HOŬIDA

Mozart kaj Beethoven
HANAZONO-BONTARŬ

Mia Viro kaj Penso Lastatempa
HOŬIDA-Acuŝi

Saluto el Suda Hokkaido
Acuŝi HOŬIDA

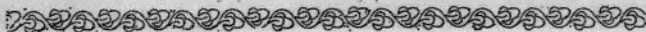
INFORMILO

OTARU ESP.-ASOCIEO - MEMBROLISTO

JUNI ESP.-SOCIETO - MEMBROLISTO

ENSPEZO kaj ELSPEZO dum 1953 de O.E.A

POSTSKRIBO



ロス
海
とたむ
び」とい
おじやが
ロスアン
さつと典
るような
もみ消し
いづれに
の人の
らない。
海の後で
みなければ

例によ
de Sipo
つた。
日曜日
曜の行来
等の乗つ
船をふり
つとめて
用ロープ

アメリカ航海の日記から



高橋 達治

ロスアンゼルス

海電がのっそり海面に浮き上がっていたり、敵が船の側をうるうる
とたむねていたり、海豚が船底をくぐつたりするのに新奇な「喜
び」という程の感情さえもちながら航海したカリフォルニアに沿う
おたやかな海での航海も、もう終りを付けてしまった。明日は再び
ロスアンゼルスに着くのだなと思うと、かんだるい航海の気分から
さつと爽やかな風が舷窓から入ってくるのをまともに身に受けてい
るような心地よさも感ずる。まづいダソルのキングサイズ煙草を
もみ消して最後の米国新基地のプランを考えてみるのだが、やはり、
いづれにしても私が頼っているのは S-ro C. Chomette だ。あ
の人の *guido* に従って僅かな上陸時間を十分に利用しなければなら
ない。エスペランティストにしばらく会えなかつた南アメリカの航
海の後では危のためにと拙言エスペラントをしやべる練習もやつて
みなければならぬ —

(1953年1月31日)

例によつて私の入港配置であるフオクスル (*la plej antaŭa parto de ŝipo*) に立ち、石積の防波堤を再びロング・ビーチにと入って
いった。

日曜日 — 遊戯場や、問貨場 (機動小漁船) のあるこの辺には日
曜の行楽またのしむ人が、そこの突堤を一杯にうづめている。— 彼
等の乗つて来た自動車のおみただしい群をみて驚いたり、遊覧飛行
船をかりあういで見たりしながらも、私はセーラー達と私の部屋に
つとめていた。いよいよ岩壁が近いらしい。ホーサー (大きな乗船
用ロープ) をたぐり出す仕事を手伝っていた私の肩をセーラーの一

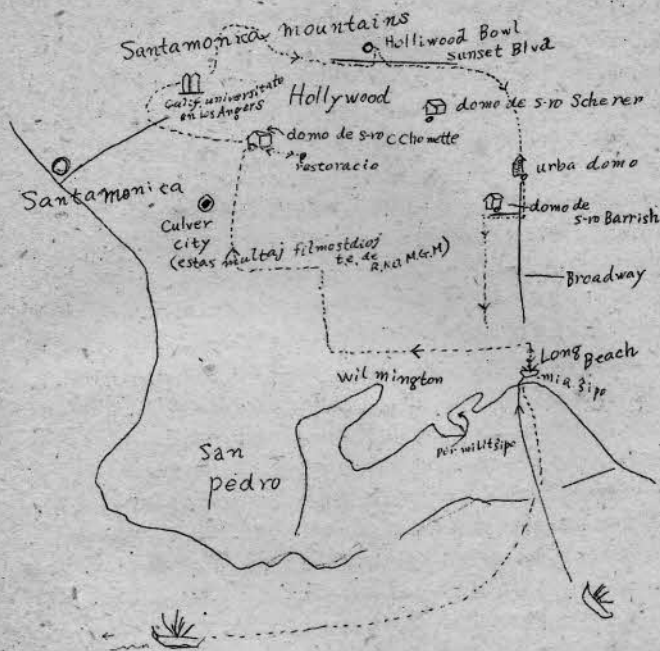
人がたいた。「高橋さん、来ていますよ！」何が？と問いかけるような気持で体を起し、岩壁を見た。あと百米。見ると、その岩壁の上に、私の方を見て手を振っている夫人。口に手をあてて何やらどなっている旦那さんがある。まざれもない、Chomette さん夫妻だ。驚いて私も手をあげた。嬉しいというより驚いた方が先である。とても、もうセーラーの仕事など手振っている気持にはなれなかった。急いで瓶門のところにつた。岩壁まであと 20m。そこで s-ro が、近づく船と一緒に私を入れてカメラのシャッターをきられたようだ。岸壁到着。菘蓐を下りて ges-roj と握手したとき、私は何ともいえない安堵した気分になれた。前回のように一人でこのただ広い街をさまよう必要はなくなつたからだ。倉庫の後に例の verda stelo のついた車があり、s-ro は車から雑誌やら土産物やらを、三人でやつと持てる位 donaci してくれた。Fundamento Kreatomatico なども二冊あつたから一冊あげるといつて差し出された。出港時間がわかるまで又船の中をみてもらった。お金の用意がしてあつてそれが純和食（赤飯）であつたから、そんなものをみて貰つたりした。

出港は夜半とさまつた。それで私も ges-roj の、市内見物をさせてあげるといふ御好意をゆつくりした気持で受けることができるわけである。

私が自動車に入ると、すぐに s-ino の運転で車が動きはじめた。私と s-ino が運転席、s-ro が後の席。面映い気持もしたが、運転席から現れてくるこの広い街の風景を眺めてゆくのは何という心地よさであつたことか、Wilmington の漁港が左に見える辺り急に車が右に九一して自動車は私の前に広大な舗装道路と広々とした野原をみせてくれた。そのアスファルト道路に入影を捨てることはできない。時に行き交うのはすべて新型の乗用車である。Se oni povas diri Novjorkon kiel "urbo de alteco aŭ tri dimensio", ankaŭ oni povas diri ĉi tiun urbon kiel "urbo de vasteco" というたら、Jes, Los Angeles estas la plej vasta

Santar

urbo en
mia lando
aŭtomobil
た。しかし
いうものは
でいる平地
de Los Ang
el via lan
うことである

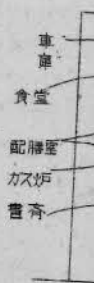


urbo en Usono. といつておられた。ついでに。Sur stato en mia lando ni povas vidi nur amataj homoj, sed nur aŭtomobilojn en tiu ĉi strato. といつたらにここに笑われた。しかし風情ないものである。人影一つ見えない広い道筋などというものは。左に曲る。そうして私達の右手に数十の飛行機が並んでいる平地がある。その金網の裏を指された s-ro が。Aerhaveno de Los Angeles! De tie ĉi, s-ro Mijamoto revenis al via lando. 神戸の宮本さんがここから別れて行かれたということである。私もこの街でゆつくりして飛行機で風爽と帰りにい

ものだが——などと思つてみたりする。右に曲る。小高い丘を越えてワシントン湖の海が青く美しく見えた。そうして道路が起伏し、その道路の両側に新しい小住宅の群が、陽気な色々に塗られて、沢山あつた。もう Culver City であろうか。家々の間にざらざらと緑の美しい小公園があつて、その遊戯場に大人も子供もまじりあつて遊んでいる。

棚のめぐらしてある中では数人の男と女の青年が Cowboy の姿よく、馬に乗つて愉快そうだ。(MGM や RKO の studio のふん装だろうか) やがて Los Angeles のちらしくなつた。住宅が密集し、道路が白く美しい。もう私の家は近いよ、と s-ro がいわれる。自動車をとまる。家に帰る前に tagmango をとり寄せようと s-ino がいわれた。その道路傍に Casa de —— と大きくかかれた看板があつたから Kion significa "Casa"? と訊いたら domo だそうである。スペインの restoracio だそうである。Cuvi Satas hispanan mangajon と尋ねられたが普通して、ordinaran tagmangon; mi Satas kiuju sju vi Satas. と答へた。しばらく自動車をはしらせ、とある大きな restoracio に入つた。ロスの restoracio は東部のそれと大分異つている。グロッサリー(食料品店)みたいに駅の改札口のような出入口があつて、おまけにそこで入場人員を制限している。こんな不愛想な店は下級な大衆食堂だろうと思つてみるのだが、大人満員で順番を待つてゐる人達の衣裳は立派だし、番號札を渡して、順番に入場させている guide girl は貴婦人みたいに上品で美しい。他の男達が椅子をとっているから私もとらなければならぬなどと感じさせる位の男匪気があつた。しばらくして入場。着席するとすぐ Cino の kerlo が mangajon を持つてきてくれた。カステラ、ケーキ、氷ヨーカンのケーキ、それが生の葉つ葉の上につかつている。此とコーヒー。なるほど ordinara mangajon だなと思つた。菓子までたべ終つたら ges-roj がその葉つ葉を生のまゝ食べはじめた。奥に野食である。しかし真似をしないわけにゆかないから私もたべた。

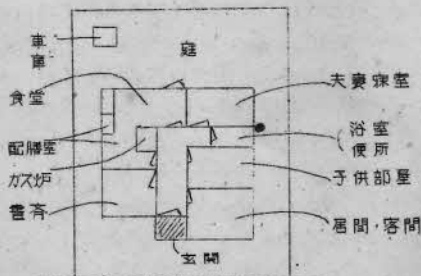
案外美
だから、
べてや
ようだ。
自動車
声に志し
てある居
たと見る
態勢で私
膚の色も
はせて子
が犬の首
る犬をだ
で頂いた
お借りし
るから、
S-ro S
つた。考



素外美味しいので二度なつくりした。本島の洋食は生野菜をたべるのだから、今夜日本食帰つたら生キマベツでも主人菜でもどんどん食べてやるうと思つたが、どうもこの菜っ葉は普通の菜々葉とは違うようだ。

自働車で前の道に戻り、まもはく mia domo! という s-ro の声に応じて下車した。しょうしゃな家である。すぐテレビーのおいてある居間に通された。突然けたたましい犬の吠え声から聞えたと思つた間に一匹の小犬が、必死の形相で私にかみつかんばかりの態勢で私の足下を襲つた。なるほど私はここの家族とは毛の色も皮膚の色も違うから。しつ しつ などいつても駄目。s-ro と調子を合はせて foriru! とどなつたが、尚更けたたましく吠えた。s-ino が犬の首をおさえて、なおも鼻の頭にしむをよせてかみつこうとする犬をだいて奥につれてゆかれた。s-ro Scherez を電話に呼んで頂いたが、今日は忙しいので君に会えないので残念だといわれた。お借りした "Cirkaū mondo" を s-ro Chomette にお返しするから、と禮をのべた。

s-ro Scherez 同様 s-ro Chomette も家の中を案内して下さつた。参考までに下にその配置を記してみよう。大体ロス附近の家



はこの物な配置であるらしいから。

居間の隣が書斎、調度品が古めかしく陳腐な感じがである。子供部屋に 2 filinoj の寝台がある。姉さんの f-ino Diant は近い中に居間される由。浴室と便所は別室、banejo

にまでラヂオが据えられてある。ges-roj の居室にはサメンホフの
写真と胸像がおかれてあり何よりも目につく。ダブルベッド。その
隣り庭に面して食堂。明るい。台所はすべてガス装置。この街の地
料は殆んどガスが使われているらしい。ガス炉がこの家の中央にあ
り。そこで空気暖房。冷房をやるが、一日の温度較差がばげしい（
書版く、夜寒い）のを、戸内で *automatike* に調節するのだそう
である。ガスレンジは極めて鋭敏にできている。裏庭の芝生は手入
がゆきとどいていた。そこで *s-ino* が *s-ro* と私とを記念にカメラ
におさめてくれた。庭の隅に犬小屋があり、*domo de amiko* と
かがれてある。この *malamika hundo* が "Amiko" という名を頂
戴しているんですが、と聞いたら笑っておられた。（Amiko は私
がロスをはなれて間もなく自動車にはねられて死んだそうである。）

居間に帰る。居間の書棚にもかなり多くのイスベラント図書があ
った。昭和初年、ロス市を訪れた日本人 *s-ro* S-1(?) の世界漫遊記
を示してその中に *s-ro* の記事がかがつてあつたのを *s-ro* がさし
しめて読んでくれといつた。*s-ro* S-1 の *s-ro* と *s-ro* の *frato*
との交友についてかがれたので、*s-ro* が *Francojo* からの移民
であることがわかつたので "Je pent parler Français un peu"
といつたら、*s-ro* *Takahasi povas paroli francan lingvon.*
といつて *s-ino* の肩をたたくれた。*s-ro* が無邪気ですぐはしやい
たりして感情を表面に出されるのは *Finlando* からの移民である
s-ino はちつくり落着いて居られる。日本人 御夫婦と反対で何に
かがおかしかった。"もう時間がないですよ"と *s-ro* にささやかれ
たようである。

楽しい居心地よいこの家から再び陽光のまぶしい戸外へ出る。西
光。真向にガラスをとおして運転台にふりそそぐ垂熱帯地の太陽光
線が私の頬に痛い程でリつた。日本ならば冬の最中というのに、
この街では独特の街路樹である檜のすばらしい並木がざらざらと
金色に近い緑色をかがやかせている。道路傍の花壇にサボテンやそ
れに類した植物も植えられていて、南国的である。その辺りで *s-ro*

が「これ
われ S-1
新しい
はますま
クススタ
学はその
その周囲
舎が美し
の別荘地
様々の小
をみせて
の家の目
高い所から
bela! ka
mia lando
いるのは
市路に入る
であつた
を見ました
娘達も先日
ましたよ」と
すつかり愉快
はしりに走る
公園らしい野
「Hollivood
と今度は *s-in*
も上手にここ
……？」と問い
宋美齡の夢だ
る必要がある)

が「これが Diante の結婚することになっている教会ですよ」とい
われ s-ro もしばらく車をとめられる。中にはいつてはみないが、
新しい葺きのよさそうな教会だった。更に西文。陽の傾きと共に緑
はますます美しくあたりを彩る。そして今度は北へ。20世紀フック
クススタチオの異様なメキシコ風の家があつた。カリフォルニア大
学はその広さにおいて、日本のいかなる大学も及ばないであろう。
その周囲をぐるりと一周したか緑色の間にオレンジ色に塗られた校
舎が美しくあつた。北へ。サンタモニカの山の中に入ってゆく。ロス
の別荘地帯であろう。やゝ急傾斜の道路のそばには赤や紫や青や、
様々な小さい花々がやはり一面の緑色と対照して強い色調の美しさ
をみせている。やがてカーブ。こんどはそのまゝ下り道。崖のそば
の家の屋根越しにロスアンジェルスの街は広々と横たわつてゐる。
高い所から展望したロスの街は「緑の街」という名に値する。Tre
bele! kaj ŝajnas al mi ke la urbo similas al Kamalupa en
mia lando. といつて s-ro を喜ばせてから、内心一いや似て
いるのはこの坂の感じだけかな——などと思つてみたりする。再び
街路に入る。道路標に Sunset Blvd. (サンセット大通り)と書い
てあつたのでスウォンソンの「サンセット大通り」という名の映画
を見ました。といつたら、「彼女は malnova aktorino だが、私の
娘達も先日日本の『羅生門』を見たそうだが大面白いわ」といつて
いましたよ」といわれる。『羅生門』の人臭をこんなところで聞いて
すっかり愉快になつた。左に曲り、二つの丘の間の広い道路をひた
はしりに走る。自動車がとまって「おりてごらん」といわれた所は
公園らしい静かな所である。

「Hollywood Bowl, つまりこの国で一番大きい野外劇場ですよ」と
今度は s-ino が説明される。「この間支那の s-ino が聞くとど
も上手にここで講演しました」と s-ro がつけ加える。「Ĉu s-ino
...?」と問い返したら、支那の元首の edzino だという。なるほど
宋美齡の事だな、と思つた。(支那人名なども英語又は原語で並べ
る必要がある)青くたそがれかけた大空の下、からんとした円い太

舞台。そして何万ともしれぬ座席。星のきらめく夏の夕べ。ここ
に幾百の燭をかけた演奏会は——などとその壯麗を思わずにはい
られない。しかし、今夜も、冬の閉は殆んどここは使われないそう
である。この附近には“Motel”とかがれたネオンの看板が二、三
ある。Motor-Hotel 即ち、自動車ごとにとまる宿屋がそうであ
る。Motel などという新語もかなり米国には多いのではあるまい
が。再び Sunset Blvd. に帰る。すぐそこにならり賑やかな街路が
ある。イスラエル派教会のめづらしい造りなども見せてもらったが、
劇場「Chinese」が何といつてもその附近の名物だろう。交那風の
赤と緑を採色された大きな建物で、その入口は殊の外人が沢山い
る。そうしてその人々は皆下をみてにやにやしている。車に揺られ
通してからふらした足どりの私がそこでゆくくと s-ro が「Jee!」と
いつて指をさされる。コンクリートの上に、これは又、たくさんの
足と手の跡、とんでもない落書きがべたべたと刻まれていて、それに
聞き覚えのある俳優達のサインがしてある。女優の手の跡に自分の
手をあててよるこんでいる男もいた。(女優の手でも僕のよりは大き
そうだったが、ふざけたまねはやらなかつた。) ゲーリークーパー
の大きな手もあつたし、心臓形に矢をさして「my love!」ともの
したグロリア・スウォンソンの落書きもあつた。

賑やかなハリウッドの繁華街を南は走る。この街の女性のスタイル
が美しく感ぜられたので“ロスの女の人はアメリカ中で一番美し
いですね”と(一般論的)なお世評をのべたら、「ほーお前、ロスの
女性はきれいだってよ、無論私の妻を含めてでせう」と上気嫌の
s-ro が s-ino を見ながらいわれる。「無論ですよ」。s-ino はどう
やら苦笑いをされたようだ。でも s-ino は真直ぐ前の方を見て運
転に怠りない。時々 s-ro と s-ino が早口にイスベラントでしゃべ
られるのだが、もうこの辺では一日のハイヤー乗車で疲れてしまっ
た私には、その会話の話題さえわからなくなってしまう。そうなる。
自動車は止る。「降りて見ませう」と s-ro がいわれた。

Urbo-domo の真近辺である。ここに malnoya は hispana

domo が
るほど in
束細工、
でん屋”と
その両側
年が若い
ホベンチ
たが mank
つた所で
ロス市の
を見たり。
がらこの街
つて住宅街
の名譽会員
のだ。精が
ばあさんが
はしげに声
られた老紳士
紹介されると
私は s-ro Pa
が ges-roj
ro Chomette
移をされる。
とがあるが、
目とみはつた
のような青二
る。及てえは
妙な安っぽい
から鳴つて来
s-ro は此を

domo があるというのだ。大通りから中の小路を、左を曲ると、なるほど hispana だ。妙な屋台店がごろごろ並んでいる。そこで網走細工、木細工、竹細工等の土産物を売っており、その裏では「おでん屋」とも酒屋ともつかぬ妙な所がある。二階建の古くさい家がその両側に並んでいて、その二階のベランダで hispano の青年が若い娘とギターをならす。白髪のうすぎたない老人が家の前の木ベンチにかけてさびしそうな顔をしている。土産物を買いたかつたが mankas mono で二三枚絵はがきを買っただけ。小路をつまきつた所で s-ro と車が停つていた。それから又南へ走る。

ロス市の Broadway をたてに走り、懐しい Sukiyaki のネオを見たり、此の前この辺に来たときの失敗などを思い出したりしながらこの街過ぎてゆくことに名残惜しさを感じた。自動車は右に曲つて住宅街に入る。この街での老エスペランチストであり、UEA の名誉会員である ges-roj Parrish のところにゆこうといわれるのだ。静かな家の前に止る。ベルをおすと上品な太つたアオの近いおばあさんがあらわれ、ges-roj Chomette とかると、オーオと喜こばしげに声をあげられてから中に招き入れられた。すぐに居間に出られた老紳士は無語、s-ro Parrish である。s-ro Chomette が私を紹介されると s-ro Parrish がはさこにこして私に手をさしだされた。私は s-ro Parrish に Sidiŋu といわれてすぐに坐つてしまつたが ges-roj の方は s-ino Parrish に挨拶するので大変である。s-ro Chomette が s-ino Parrish にひざまぐき mano に kiso の挨拶をされる。この挨拶法は映画（それも十九世紀までの）でみたことがあるが、実際のははじめてなので失礼だつたけれども奥に目をみはつた。ges-roj Parrish も上品で bonhumora である。私のような青二才を通するには丁重すぎるかと私自身に思われる位である。たとへば、私が日本から来たということも喜ばれ、奥に入つて妙な安っぽい湯呑茶碗をもつて来られてから、「私の息子が沖繩戦線から帰つて来ましてね」といいながらそれを私の前に差し出される。s-ro は此を日本の藝術かなんかのように思つていられるのではな

いだろうかとちよつと考へたが「この表面にかけられているこの日本の文字はどういうことなのですか」と問はれる。見ると、「もののふのかがまは人の糧かな——大石良雄」と草書体でかけられてある。早速説明にかかつたが「大石良雄」の説明に多辭を要した。とにかくまがりなりにも説明したら、s-ro Parrish はとても喜ばれた。

s-ro Chomette も相づちをうたれて、日本の文字がすぐわかるなんで全くエスペラントのおかげですね」といわれる。日本の年寄りのように若いものとみればすぐ教えてやろうとが、説教してやろうとかいつて悦に入っているのと違つて、若い人からも知識を得ようとする。そういうこの御老人の態度が私には大爽氣に入つた。暗緑色に暗んだ戸外の涼しい空気がもうこの室に流れこんでいるようだ。ges-roj Chomette に促されて表を出たが ges-roj Parrish は丁寧に玄関のポーチに送つてくれた。サメソフの存命当時の古いエスペラントの斗士だつたというこの人のさしだされた老いた手には未だ若い温い血潮が流れているように感ぜられた。

真暗な道をサーチライトが途方もなく速く照らすのだがそれに映し出されたものはすぐにこちらに流れよる道路と、真黒な街路筋だけである。郊外を走る自動車の速力は、むしろロス市街をかえりみる余裕を私に与えない。家の灯が一つ二つとみる間に工場街を抜けて Wilmington から再び Long Beach 市街に入る。給油所の駐車場を車をとめ、そこから Long Beach の中心街を三人で歩いた。とある小路の隅に神欄の木立があり、そこに小じんまりしたスペイン料理店がある。s-ino の指図で私達はそこに入った。若い海軍将校が一人居て此に店のスペイン旗が酒をそそいでいた。天井の赤いランプが晝間私が見ていた緑色の印象と妙に混和して私の心を昏かせた。s-ro が酒をすそめたが、下戸であり、すぐに赤くなつてしまふ私は多くはのまなかつた。s-ro はしかし大分好きな様である。Mi bedaŭras ke mi ne povas trinki multe, sed generale japanoj tre ŝatas trinki sakeon kaj iuj el ili trinkas ĉe 2 litroj da sakeo unu foje. といつたら「私だつてそれ位の

みますよ」ともきかれたらう。その時が運んできたを固く処理し入つている。てしまつた。水なしでは夜の気分は尚も街を歩いやげ物を買う。阿蘭は以外2等機関士が jam la tempo しい気分がしこの見知らぬいよいよお別と挨拶したけりみだれた感つてるのかわい街路の中にの後のライトが残っている——

夜中荷役をなれた。ロス ges-roj の防波堤の灯台のみである。

みますよ」といはれた。s-ro は船で日本までいくらかかるかと何どもきかれたがきつといつかは日本を訪れられるおつもりなのである。その時には大いに sakeo を飲んで頂きたいものだ。kevlino が運んできたスペイン料理は、外見玉子焼に似ているが外皮が米粉を固く処理したビスケットみたいなもので、その中に肉の野菜煮が入っている。ところが一口口に入れてみた所が、その辛さに驚天してしまつた。s-ino はかなり平気に食べて居られたが、私はとても水なしでは食べられなかつた。

夜の気分は北海道の初夏に似た爽やかな涼味がある。私達三人は尚も街を歩いた。ボーリングの競技場に案内して貰つたり、店でみやげ物を買うのに助けて頂いたりした。

所間は以外に早く過ぎていた。午昏夕時、船に着いてから、丁度2等機関士がいたのでエンジンルームを見せてあげたりしたが、

jam la tempo adizui al vi と s-ro がざり出された時、爽にさびしい気分がした。一日あつて忽ち十年の知己のように、いや、いや、この見知らぬ土地ではおちさんおぼさんみたいにも思はれた人と一いよいよお別れするときなのだ。私は、又いつかやつて来ませうと挨拶したけれど、おそらく再びはお会いできないと思う。何が入りみだれた感情が私の胸の中で右往左往し、そして自分でも何をいつてるのかわからないような言葉が口から出て——あの星空の晴い街路の中にお二人の顔が消えてしまつたように思う。妙に自動車の後のライトに照らされた自動車取付の verda stelo が印象に残っている——

夜中荷役をした。そうして予定時間より遅れて午前4時に港をはなれた。ロスの灯がだんだん後には流れてゆくのをみていると、又 ges-roj の顔が浮んで来た。私のために——80哩も自動車まで走らされて、喪れてぐっすりお休みださう——など考えたりした。

防波堤の灯台も過ぎた。船の前遊にはもう洋々たる太平洋があるのみである。そうして今更のように私は私が日本人で、日本という

故国に帰る身であることを海國に指かれた一本の線によって知つた、
アメリカ沿岸を走る事二ヶ月餘、そして手胸の中に温く残る思い出は
すべてあのエスペ란チスト種の bonkoreco による贈物である。

Adiaŭ, Usono — そうつぷりやきながら、又読んできた fimo
Wolf, s-ro Kumamoto, ges-roj Scherer, ges-roj Chomette,
ges-roj Conner それから ges-roj Parrish などのお類の方に
Dankon, Dankon をささげるのである。

(1953.2.2)

完

Ridiindajo - Fablo -

Trad. de Noboru Hajakawa

*Kiel Favoros la Avalokitesvaro en Asakura al Tiu
Ĉi Komercisto?*

*Ricega kaj pli ol sesdek jaraĝa komercisto loĝin-
ta en Edo (pasinta nomo de japana ĉefurbo Tokio)
kun la rolo, ke li konstruu la sanktejo de Dio Inaro
(vulpotipa dio de la greno), fervore preĝis al Avaloki-
tesvaro en Asakura (parto de Edo), ke la sankta
favore longevivigu sin pli ol sia tiama aĝo.*

*Ĝuste en la mateno, kiam lia sestaga regula
preĝo finiĝis, li ie trovis nonojn kiel multe
centro senojn. La komercisto tre ĝojis pro tio,
kaj, reverente keĵmen, li kunvenigis siajn fam-
ilianojn kaj geservistojn. Do, li anoncis ilin.*

*"Mia trovo de monoj, kiom ajn malmulte, estas
tute signifoplena kaj al la sankta dankebla, ĉar*

*ĉar mi scia-
njo-bō. La
eco pli aĝa
erojn el di-
statuon de
al Avalokite-
mal novtem-
ellaboro. T-
vojo. Do, l-
gevirigu lin
li efektivig-
mi kredas, A
ĝojinda?"*

*Auskultan-
flustris. La
eklarimis. Do*

*"Ĝuste je
La komizo ju-*

*"Nur mi s-
diveni trovi
la orakolo a-
signifas ke
la centro s-*

Post la a-

(Tek-

en

Has-

Ĉar mi scias la rakonto de fama budana pastro Ŝin-
nĵō-bō. La pastro, kiam li, malgraŭ sia maljuneg-
eco pli aĝa ol sesdek jara, piedirne varbadis monof-
erojn el diversaj provincoj por konstrui grandegan
statuon de Budao kaj ĝian templegon, kiel mi preĝis
al Avalokitesvaron en Kijomizu (parto de Kioto, la
mal novtempa ĉefurbo) sian longevirigon por sia
ellaboro. Tiam, maton-maton li trovis sur sia
vojo. Do, li ege ĝojis kredante, ke la sankta lon-
gevirigu lin pli aĝan ol dudek jaraĵn. Kaj, fine
li efektivigis sian jurpromeson. Laŭ la ekzemplo,
mi kredas, ke tiu sendube estas al mi la orakolo
ĝojinda."

Auskultante lin, ĉiuj krom hereda komizo kortuŝite
flustris. La komizo nomita Kĵūzō nur melankolie
eklarmis. Do, kelkaj nekomprenible al li demandis.

"Ĝuste kiam vi ĝoju, kion vi sentas?"

La komizo juna respondis al ili plorvoĉe.

"Nur mi sentas la veron! Certe estis rezonebla
diveni trovitajn matojn je longevirigu. Tamen,
la orakolo al mia mastro, estas alisignifa. Tio
signifas ke li subite mortu. Ĉar mi kredas, ke
la centro senoj aludas la finigon de lia vivo."

Post la diro, li ploregante kuŝiĝis.

(Teksto : "La Verkaro de Ridindaj Fabeloj
en Budaismemo " kompilita de Ŝ-ro Ŝikō
Hasumoto.)



訳者まえがき

60年のエスペラント

G. J. Degenkamp

朝比賀 昇 訳

これは《*Esperanto 60 jara: skizo pri la evoluo de la lingvo literatura*》de G. J. Degenkamp 1947 (Libroservo F.L.E., Nederlando) 16×24 cm 58 p. の全訳です。本書については *Akademia Prof. Kawasaki* の *R.O.* p.146, 1953 に述べておられますが、本文は 42p. ぐらいに《*La Neĝa Blorado*》(de Puŝkin, tradukita de A. Grabowski) (8p.) と《*Cezaro*》の一部 (de Jelusiĉ, tradukita de Potkviĉ) (6p.) が附けてあります。約150名の *Esperantistoj* が訳され、本文だけ訳しても 400字づつ原稿用紙 200枚位に及びます。面白い本材ので訳して連載してみようと思えます。

UEA の《*ESPERANTO*》誌 Nov'47 に *Recenzo* があるののでその一部を引用しておきましょう。

«...Li detaligas la stilaĵn apartaĵojn de la plej gravaj renkistoj, originalaj kaj tradukaj, kaj esploras la uzadon de diversaj vortoj kaj vortformoj sub iliaj plumoj. Atentigante pri la diferencoj inter la plej primitiva kaj la plej moderna formoj de la lingvo, li proponas al la leganto ekzemplojn de ambaŭ, reprezentante de la fino de sia verko unue la konatan tradukon *La Neĝa Blorado* k' *Cezaro*. Inter multaj evoluigaj faktoroj menciitaj en la verko, oni citu la liberecan sintenon de Zamenhof mem rilate al la stilo de aliaj renkistoj, la insiston de Prof. Cart kaj aliaj samopiniantoj pri plena fideleco al la Fundamento kaj obemo al la decidoj de la oficialaj lingvovinstancoj, la aplikon de la principo pri neceso kaj sufiĉo, rekomendita de la Akademio en 1913, kaj la gramatikan influon de la naciaj lingvoj,-----

(Alec Venture) »

はじめに

60年 エスペラントの初期におけるの空想が完全に現実を現実化すること

けれども、彼ら世界は国際語問題よつてうめばれていこの願望を

類は どのようにしと便利にするが、ま

で 願を一杯にして完全化を考へて

ウカイ 諸問題を日漸厳せられる

は注意しておりま

というの、それ

らず、私達の行動

終局的目的をまだ

議させるなどの

はじめに

60年 エスペラントは既に存在して来ましたが、もしもエスペラントの創始者や、このゴトバの初期における開拓者達が、60年のちにはなお、世界的に使われるゴトバという彼等の理想が完全に実現されていないということを知ったとしたら、彼らは多分彼等の理想を現実化することについての希望を、幻滅を感じてあきらめてしまつたであらうでしょう。

けれども、彼らは 世界を私たちが目指したところまでみていたのです。いつの日にか世界は国際語問題を、彼等が解決した方法を、感謝とともに採用するだろうという希望によつてうめばれていたのです。彼らに感謝してやまない後輩である私たちは、すばらしいこの願望を、世界が受け容れていない ということを知っています。現実まわく、人類は、どのようにして、技術を、できるかぎり高めるか、どのようにして、生活をもつと便利にするか、また将来、どうやって、力を、たくさん、もうけるか、といった問題で、頭一杯にしております。これらの目的を達するため、人類は、いつも、新発明や完全化を考案して、生活を一変混乱したものに、使っています。しかし、もつとちやウカイな諸問題を解決するためのそうした努力のうち、固く、固くゴトバが違ふという毎日痛感させられる問題にも、また、すぐ採用できるそれに対する根本的解決法にも、人類は注意していません。この事實は、起観すべきものでありましようか？ いや、いや！ というのは、それにもかかわらず、世界は、私たちが、もはや、ユートピアンとは離れておらず、私達の行動を監視している、ということに、経験しているからであります。私達の終局的な目的をまだ達してはいませんが、一般の興味をよび、この事業の重要性を強調させるなどの、注目すべき結果を、現しており、そして、既に60年も前に人類のために用意されていた贈りものを、私達の手から、對内的に手渡すため、事業にせしめ、という時、も、そう望まないのであります。満足な私たちが、過去を、ふりかえることはできません。また、ことに、希望と、正当な報酬、とをもち、将来を贈めることができるのであります。

たくさん、このことを、エスペラントは、過ぎ去つた60年の間に経験して来ましたが、いくら成功のすざには、不根をも味わつたのです。理想をかかげた運動は、たゞざわる人類の期待を、垂い去つた、幾度かの重要な世界情勢のおかげで、成長の時々の多には、何らかの波瀾の時が、使いました。しかし、全体として見ると、進歩の一端は、思慮に足らないとしても、体面ごとく、漸次に、上昇しているのです。けれども、も一つの地球の上にも、すなわち内部にも、このゴトバは、多くを体験して来ましたが、前には、しりぞかぬならば、フラフラと、とりあつかひれた、このゴトバは、ついに、エスペラントは、ほとんどあらゆる面で、民族と、同じ価値を、持つている、という事實に、対する疑いは、もはや存在しない、ということ、そんな、強力な、内部的な、力を、得たのであります。エスペラントは、発展したのです。それは、だんだんと、実質的な、必要に、適応する、ようになったのです。そして、まづ第一に、それは、文學的使用に、対して、価値が高い、ことが、示されたのです。

エスペラントが、その初期に、どんなであつたか、また、今私たちが、使つて、いるもの、の、よう

なるまでに エスペラントは 幼年期から どれ程発展したものであるかということに エスペランティスト界自体に予すべき時期が来たのであります。

これこそ この本の目的なのです。

私たちは 沢のことをよく心にためておきたいものです。根本的に固定されている規則のおかげで 変化らしい変化が起らなかったため、初期のエスペラントは幸運だったという様なことではなく、エスペラントの精神に調和し その根本的規則を守つても採用できる、そういうものだけを 語式英語から 取り入れながら、個々の力と血気によつて このコトバが どれほど発展して来たか ということをし。

この本は 近代学の様で 厂家的概観を専らしようとするものではありません。というのは それほどでもできなないと感はれるからです。コトバというものは それを使う人たちの ことに文字書の手の中で 発展するものであります。けれども 私たちは コトバの発展が段階的に行われたと云ふことはできません。一歩保守的で あまり遅いことわざをしらない作家達の手中においてよりも 他の作家達の手中において コトバは より広いものになり より現代的なものになつて 発展を上げて来たのです。

各章に分けた形のそれぞれが書かれています色々な事実や、作品、進歩のあとなどに解かれたものが、こうして発展に関する 何らかのスケッチを著くように努力しました。けれどもこれらの各章を ばつかりと区分された各時期のものだ というふうには考えないでいただきたい。コトバの発展の相というものは 沢の新しい相が始まる手順で ぎりか文のためにストップするなどという具合には行かず、又相が まるで流れ合つたように、時にはほとんど平行して進むことさえも 多いのであります。

エスペラントを文法に應用した もつとも時間均かけられた物として 2つの断片を、この本の終りに掲載して、私は エスペラントには 本書の変化というものはない ということを証明しました。その2断片は まだ非常に原始的だった頃の エスペラント第1年に A. クラボウスミイが試した A. プーシキンの「改定」と、エスペラント自身もつ あらゆる可能性を生かして もつとも現代的な感覚でエスペラントを使うべきを心得ている I. ロトゥクヴィチュによつて試された M. エルシチエフ「シーザー」の1部分と、であります。思いまどう手ではなされた前者と、エスペラントが実現し得ないものがあるかどうかを 試みる実験でもあつたかのように試験筆蓋の痕跡との間には ちがりと異点だけでなく 大きな差があるのがわかります。けれども、その大きな差にもかかわらず、現代のエスペランティスト達は 前者の試みを 後者の藝術的作品と同じようにたやすく読むことができます。ここに眞の発展があるのであります！ 私たちが正しく進むことができる発展こそ それなのであります。

阿姆斯特ダム 1947年5月25日



Havas
nta nur k
duonbakit
landanoj
publas kon
hari cert
tikon kaj
kaj vortfo
plene senu
landano. I
konojn. Ka
ektu aŭ t
poŝtaĵojn
ron, ĉar
Kaj por la
iga kaj la
oran temp
devas ater
la lingvog
kapablaj k
Nur tiam
kaj veran
kiujn ĝi es
Pro tio an
ta tempo m
komprenis k
Nur homo,



LETERO EL ĈEĤA KAMARADO

Havas certe nenium valoron, kiam gekursanoj, scianta nur kelkajn vortojn kaj Esp. esprimojn, do tute nove duonbakitaj esp-istoj. Satas korespondi kun la eksterlandanoj nur pro fierigi kaj fanfaroni, ke ili jam kapblas korespondi kun alilandanoj. Certe oni devas hari certajn lingvokononjojn, oni devas scipovi gramatikon kaj lingvokononjojn, oni devas scipovi gramatikon kaj vortfaradon, sen tio estus la tuta korespondado plene senutila, eĉ tempoperdo, almenaŭ por tiu eksterlandano. Do oni devas unue hari certajn preparojn kaj kononjojn. Kaj ĉiam nur peti la kursgvidanton, ke li konjektu aŭ tute traduku la forsenditajn aŭ ricevitajn poŝtaĵojn, ne estas ja eble kaj havos nenium valoron, ĉar ne li, sed tiu kursano ja volas korespondi. Kaj por la kursgvidanto estas tia laborego ege enuiga kaj laciga kaj neniu rajtas ja rabi lin lian valoran tempon. Kaj por ke nenion oni perdis. Oni devas atendi iaman tempon, ĝis la niaj kononjoj de la lingvogramatiko estas perfektaj, tiam oni estas kapablaj korespondi mem, sen helpo de alia persono. Nur tiam la interkorespondado havas sian gustan kaj veran valoron kaj plenumi ĉiujn taskojn pro kiujn ĝi estis de nia Majstro L. L. Zamenhof kreita. Pro tio ankaŭ pasio de la kursanoj devas nepre post certa tempo malvarmigi. Ĉar ili neniam komprenos aŭ komprenis kion oni devas gajni danke al nia Espo. Nur homo, kiu senhelpe de alia persono nem korespon-

das, povas prijugi la signifojn kaj valoron de la inter-
 helpa lingvo kaj povas ĝin pro tio ankaŭ sati. Mi
 diras ĉiam, ke venaj esp-istoj, apartenas al certa
 interesa homklaso, nome al homoj, al kiuj ne plu
 sufiĉas tio, kio sufiĉas plene al homoj aliaj, sim-
 ploj, do nur manĝado, trinkado, dommo kaj certaj
 amuzoj. Esp-istoj celas kaj volas certe pri multe
 de la vivo, ili estas scivolaj, kiel ekzemple: kiajn
 virkondiĉojn kaj cirkonstancojn ili havas, ĉu ili
 vere opinias la mond pacon efektivigeblan k.t.p.
 Esp-istoj vivas kaj vere volas ankaŭ vivi, sed ne
 nur tio, li ankaŭ celas lasi vivi la aliulojn, pace
 kaj ame, ili volas sian vivon pasigi senfelse, eko-
 nomie. Ili serĉas amon inter homoj kaj celas doni al la
 homaro la perditan kredon al Dio kaj Naturo.

Parton de la letero lastatempe sendita de Ĉeĥo-
 slovak kamarado Půžička Václav mi sendas ĝi kune
 al la redaktoro. Li estas mia nur dumjara korespon-
 danto, sed, ŝajnas al mi, ke lia opinio estas tre int-
 eresa kaj justa. Precipe pri la linioj traktantaj
 pri komencanto kaj korespondado, ĉiu Esp-propa-
 gandanto aŭ kursgvidanto trovus lin trafaj.

— (Aĉuŝi Hoŝida) —

イスペラント通信教育開講

川崎市汐見台町 川崎海兵学校内

イスペラント研究会

○ 希望によりいつでも受講できます。

○ 通信にする説明と操前指導を行います。

教科書・通信費 500円

○ イスペラント学習に要する費用は次の通り | イス辞典 180円



R.O.の五
 thoven
 がついてい
 眠して見た
 もとより
 ラントの方
 ちずのソシ
 て書いてみ
 得られるな

Moz
 Estis

vojaĝis de
 ulo volis

Kiam
 por la unu

kaj laŭdi
 Li pensi

nte lerni
 (独文) M

Es wan
 ven von

nach Wien
 Der Jun

zart, dem
 weltberüh



Mozart kaj Beethoven”について

花園凡太郎

R.Oの五月号にエスペラント入門講座として Mozart kaj Beethoven が載せられて、三宅史平先生の懇切な解説と流麗な訳文がついているのを読んで、このエスペラント訳文とドイツ文とを対照して見たいと思った。

もとより私はドイツ語をな ぢなぐらいしか知らないし、エスペラントの方もまだ leomencanto に過ぎないのだから、メクラ死におぢずのソシイを泥れがたいけれども、私にとっての一つの勉強として書いてみようと思つたに過ぎない。諸君がらいるいろの御叱正が得られるならば幸甚。

Mozart kaj Beethoven

Estis en la jaro 1787, kiam la juna Beethoven vojaĝis de sia naskurbo Bonn al Vieno. La 16-jara junulo volis ricevi lecionon de Mozart.

Kiam Beethoven vizitis la mondifaman muzikiston por la unua fojo, li ion hidis al li. Mozarto aŭskultis kaj laŭdis la ludon, sed nur per malvarmaj vortoj. Li pensis: Ĉi tiu juna viro ludas ion kion li dilige lernis en sia hejmo.

(独文) Mozart und Beethoven

Es war im Jahre 1787, da reiste der junge Beethoven von seiner Vaterstadt Bonn, in der er wohnte, nach Wien.

Der Jungling, der 16 Jahre alt war, wollte bei Mozart, dem großen Meister der Töne, dessen Name schon weltberühmt war, Unterricht nehmen.

Als Beethoven ihm das erstemal besuchte, spielte er ihm etwas vor. Mozart hörte zu und lobte sein Spiel, aber nur mit kühlen Worten. Er dachte: „Der junge Mann spielt da etwas, was er zu Hause fleißig eingeübt hat.“

{(G) Es war im Jahre 1787, im = indem
Estis en la jaro 1787.

ドイツ文では前置詞の in は必らずる格をとるのに、Esp. では前置詞の en に格の支配が無く、年や時、気候などの場合には英語やドイツ語のように文法上の主格 it や es を必要としないことは簡略で甚だよろしい。

kiam ----- = da 「...したその時」

la juna Beethoven = der junge Beethoven

ドイツ語でも固有名詞に定冠詞をつけないが定冠詞 + 形容詞 + 固有名詞と写ると意味が限定される。

naskurbo = die Vaterstadt

de sia naskurb Bonn al Vieno = von seiner Vaterstadt Bonn nach Wien.

in der er wohnte 「そこにかねが住んでいた」は Esp. では省かれている。

vojaĝis = reiste (reisen の過去形) [3人称単数の]

La 16-jara junulo = Der Jüngling, der 16 Jahre alt war
十六才の青年。der Jüngling は 12才から 20才までの若者青年のことだと岩波辞典には説明してある。

volis = wollte (wollen の過去、欲した、望んだ、願った)

(以下、次号)



昨年来、小
在患、そのあつ
—の仕事をさ
求めて—とい
留めていませ
す。ところで僕
の貴姓 Karl-
に紹介し、近く
る」といつてお
好者とうまく話
す、外にいく
いろいろ面白い
だ(?) 色々、我
とはかり居る?
たように、各民
の政治家たちに
hof のいつた
んどん通信して
知らせたいと思
中英貿易復興
行われて来たで
大計画、又その
は出来ないはず
お死んで。おや

Salut

Unue, m
Due, mi pet
longtempa s
al vi, ke m



Mia Vivo kaj Penso Lastatempa

Hoŝida-Acuŝi

昨年春、高小級に出来た小さなうたの好き友達中のグループに居るふみを入れて以来、現在まで、そのあつまり——(今はひまわり合唱団という一寸風のさいた名前をもっていますが)——の仕事をさせられて来ました。ひまわり——日に向つてのびていく——明るいのを求めて——という気持ちからこんばんがづいたのですが、今团员30名程、週一回集つて練習しています。彼の仕事は工場と、この合唱団とでは一杯という始末、まゝの近況です。ところで僕が通信している *korespondanto* にこのことを書いてやつたら、ドイツの書生 Karl-Heinz 君から、ひまわり合唱団への *Saluto* をかいてさましたの返に紹介し、近く出る団員にのせることにしました。「返事をかいてきたら試して送つてやる」といっておいたから、Esp.を通しての葉書文通になるかも知れません。外国の音楽愛好者とうまく話ひのけば——と思つています。

又、外にいくつかの友からの手紙は試して組合新聞其他のせよかとおも返つています。いろいろ面白い文もあるのです。ピキニの水爆だ、海軍備だ、アメリカのインドネシア介入だ(?)云々、我々の知る外国の人は皆平和をのぞんでゐるのに何故こんなふうにいやなことはかり起る? と時々考えさせられます。しかし、*Majstro Zamenhof* もいつたように、各民族間の障壁、互に話し合はず理解し合えず、その困難を排除するものが一部の政治家たちによつて行われているのも一つの因子ではないでしょうか。今こそ *Zamenhof* のいつた如く我々が Esp. によつてそれを打ち破つていくべき時かと思ひます。どんどん通信して多くの人達に、世界の人人の平和へののぞみには障壁がないということを知らせたいと思ひます。

中兵貿易協約、ソ連・中兵よりの場面も政府の手ではだめだつたのに、民間の力によつて行われて来たではありませんか。Esp-istoj も、今やつている「世界の予帳」のような大計画、又その外何でも、世界諸國風の理解を深め、少しでも平和への道をひろめる仕事が出来ないはずはないと思ひます——とか何とか考へる内、夜もふけて来ました。皆さんお元気で。おやすみなさい。(1954.5.70.夜)

Saluto el Suda Hokkaido

Acuŝi Hoŝida

*Unue, mian bondeiron al ĉiuj samideanoj en Hokkaido!
 Due, mi povas riazjn grandanimajn pardonofn pri mia tre
 longtempa silentado! Tria, mi ĝojas, ke mi povas nun sciigi
 al vi, ke mi laboras sane en la fabriko ĉiutage, sed, krare*

mi malgustas kaj bedaŭnas keĵ eĉ devus konti, ke mi peris
neniom labori por nia kara lingvo Esperanto.

Kiel vi fartas, karaj gesamideanoj? S-ro H. Kodama en
Sapporo kaj aliaj geo-anoj en Juni. S-ino Fumiko Kisimoto
estas sana kaj ofte parolas pri vi kaj gajaj tagoj en Juni.

Felidon al novaj geedzoj!! Mi dediĉas ĉi saluton al
Geo-roj Jamamoto, Takahashi en Otaru, kaj aliaj novaj
de mi ne konataj-----.

S-ro Sugawara en Azuma: koran dankon por via bongastigo
antaŭfoja, kiel vi fartas? Ni baldaŭ reveridu! Ĉu ne?

Pardonca por mia longa silento, S-ro Hirata en Muroran!
Mi deziras iam viziti vian urbon, sed bedaŭrinde, ankaŭ
ne realiĝis.

Kiel iras via Esp.-lernado, juna samideano Ken-ichi Itō,
en Simizu Mezelnejo en Muroran? Mi ofte prizorgas pri
vi, ĉar vi lastatempe, neniom sendas leteron. Kresku kiel
juna herbo!

Do, mi metu plumon por hodiaŭ. Karaj gesamideanoj,
premu manojn reciproke, varme kaj forte, por pli firma
antaŭmarŝo kun nia komuna ligito "LEONTODO"! Jam la
floroj LEONTODO gloras bele eĉ ĉi tie, ĉie malfunovenas
printempo, donia organo "LEONTODO" ja devas flori
bele, per nia komuna klopodo anoncanta printempon
al ĉiu dormanto.

原稿募集

LEONTODO 第10号の原稿を募集します。

- | | |
|-----|-----------------------------|
| 装 幀 | なるべく原稿用紙を使用の事、敬書にして下さい。 |
| | 内容は別に制限せず、しかしなるべく時局を反映せるもの。 |
| 締 切 | 7月5日 内容・編集等にういてはどしどし御覧見と |
| 発 行 | 7月中旬 およせ下さい。表紙は趣向ほものがありま |
| | したら御紹介下さい。 LEONTODO 編集部 |

Ni
kvar j
La
Kajam
de Jan
ko Tu
zinta
Am
tute
Laŭ l
adon
Tur
geed

Plej Honorajn Bondezirojn

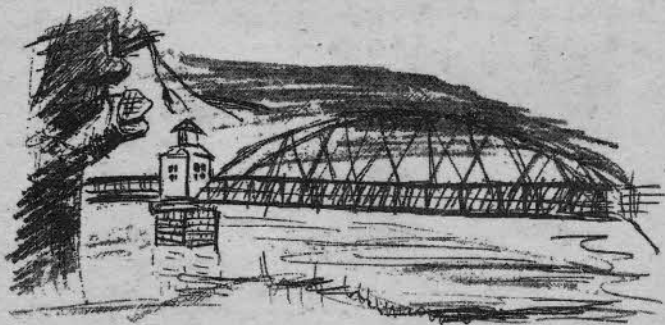
al la Du Junaj Paroj

Ni havas la hontentecon sciigi al vi, ke kvar junaj geatoj jam faris du bonajn parojn.

La unua estis la geedziĝo de Fino Yasu-ko Kajama kun S-ro Tatuzi Takahasi, en la 25-a de Januaro. Kaj, la dua estis de Fino Sizu-ko Tutida kun S-ro Syoziro Yamamoto, okazinta en la 26-a de Marto.

Ambaŭ tiu novelzoj estis por nia movado tute fidindaj, kaj ankaŭ la du novelzinoj. Laŭ la edziĝo, ili necese fortigos nian movadon per laboro kaj pasio.

Tute feliĉan novrivadon por ĉiu de la du geedzaj paroj!



エスペラント講習会開く

小樽エスペラント研究会では今年もエスペラント初等講習をはじめ、5月/2日から毎週水曜日市立図書館にて向う3ヶ月間、参加者下記の如し

	住所	勤先(又4種教育)	Tel.
志村真勇	20 ⁺ 市内冠町69	市役所	
浪田義広	19 市内石山町60		
佐々木順一	16 市内東雲町22	緑蔭高校	
伊藤繁雄	28 禾広町71	旭ヶ丘中学(教員)	
長谷昌幸	23 巖上町9	旭ヶ丘中学()	
藤原敏郎	17 巖上町10	千秋高校	
斎藤邦夫	汐見台町1	海員学校	
士山 忠	石山町9	千秋高校	
菅谷 博	20 緑町商大二寮	小樽商大二寮	
五十嵐あゆみ	16 緑町3の4	旭ヶ丘中学	
“ 剛子	14 “ “	“	
室積敏彦	19 市内入舟町5の4	北大2年(教員)	
伊藤成人	16 市内第二埠頭	汐原高校	
富沢幸枝	興沢町2の32		
野口源太郎	花園町西4の59		
○ 横山良勝	20 榊ヶ枝町44	商工信用組合	
久慈陽子	21 真珠町101		
多田 弘	16 花園町西3の5		
佐藤敏雄	15 小樽海員学校内		
池田鶴正	16 小樽海員学校内		
工藤信克	17 小樽海員学校内		
里谷捷治	13 高島町71	高島小学校六年	
○ 滝 和美	19 小樽商大二寮	小樽商大二寮	
渡辺良作			
五十嵐孝子	石山町37		

小樽工スペラント協会

1954年1月現在 世にも
住所変更のものは訂正した

山 賀 勇	49	花園町東3の11	眼科医就開業	Tel. 1,116
早 川 昇	46	緑町2の2	歯医学校講師	757
高 橋 達 治	28	裏沢町2の3	湖浜学校教員	4790
高 橋 やす子	27	" "		
中 沢 天 取	60	花園町東4の22	観劇	
池 島 三 吉	48	緑町5の28	拓銀才二支店次長	2,850
江 口 音 吉	45	裏沢町4の22	茶商	3,827
山 本 昭 二 郎	27	世ノ江町9の8		
山 本 晋 子	27		長編中学校教員	
土 田 虎 幸	30	清水町34		
前 田 幸 一	25	花園町西2	海軍局人庫課	5010
沢 原 圭 治	48	入舟町4の14		
芥 藤 聖	35	花園町東2の12	汐原高校教員	754
蟹 田 み ち 子	22	(羽里)新光町	羽里中学校教員	3,229
長 岡 弘	22	豊徳町25并華南堂	会社員	
星 巖	27	船橋町西3の18	森川編組会社	1,171
河 野 子 工 子	24	汐見台町9	小樽測候所	432
小 黒 一 弘	26	船橋町東8の16		
高 村 光 東	22	花園町東3の9	小樽商大學生	
元 谷 涌	18	朝里新光町90		
佐 藤 肇	22	南永岩町25		
佐々木 俊一	17	河東郡上工根町黒石平	陸軍明究株式会社監理長河電見課	
佐 藤 忠 秀	17	長瀬町22		

(寄 員)

岡 崎 茂 治	59	入舟町9の2	等似運輸社長	6,486
三 浦 幸 藏	41	東区那志美芝美1門17	拓銀虎ノ門支店次長	
森 水 三 郎	44	最上町10	道新小樽支社	3,283
矢 田 貝 記 雄	22	札幌市丸6西10		
滝 一 郎	27	美唄市下4の4	三井美唄炭坑所	

下山 孝吉 43 定山嶺中學校
 坂口 蓮治 66 古平町深町
 高橋 要一 42 札幌市南大通東八 橋札会社

由仁エスペラント会

1953年10月18現在
 但し誤謬を訂正し、訂正したものは
 括弧書きで示しているものは

新田 尚 男	36	夕張郡由仁町字三川	由仁町議政事務局
片山 慶 雄	29	"	木工場
大村 誠 誠	29	"	由仁町役場史員
桑 高 正 男	18	"	学生
田中 郁 夫	21	"	栗千歳炭坑隊員
坂井 敏 雄	28	"	三川炭坑隊員
桑 島 隆 雄	29	"	京千歳炭坑隊員
渋谷 節 夫	32	"	商賣
村上 隆 隆	23	"	信用金庫取次
宮井 康 夫	27	字由仁	稲米
菅 ハル 工	33	"	"
新谷 英 子	30	"	小學校教員
石 塚 秀 子	26	"	"
平 塚 裕 子	24	"	"
外山 程 子	19	"	由仁町役場取次
泉 谷 昭 典	19	字川端	由仁町議政事務局
成 松 富 子	19	字能木	由仁町役場取次
伊 藤 秀 隆	37	字古山	"
井 端 秀 雄	25	字岩内	小學校教員
武 田 二 郎		岩見沢市之森東2丁目3	
藤 井 沢 司		" " 4茶屋15丁目	岩見沢保健所隊員
岡 本 義 隆		空見町三並町機務別	小學校長
工 藤 尚		" 特別38	
田 畑 至		洞河郡洞河町洞河高専学校内	高等學校教員
川 合 トキ子	26	札幌市北23条西5 箇所石	
○ 井 本 富美子	34	苫小牧市緑町 88	白旗社宅
白 井 和 子	22	室蘭市輪函駅前	札幌教団行

(収入)

前年度繰上
 銀行利子
 会
 寄

(前年度繰上)
 預金
 現金

Postsk

LEONTODD

る。昨年12月
 に半年の空白を
 わけては、今
 4月中旬に正
 れたのは、理
 申状ない。中
 死傷水一定量
 こどせす。重
 LEONTODD
 のでいろいろ
 の事情は、い
 るらわれて、ま
 且つ責任と感
 とがきける人

小樽エスペラント会 1953年度収支

(29. 1. 31)

(収入)

前年度繰越金	13,274
銀行利子	639
会費	14,660
寄附	1,580
	30,153

(支出)

学生会費増済金	3,700
LEONTODO助益	3,600
通信費	274
翌年繰越金	16,579
	30,153

(前年繰越金内訳)

預金	12,274
現金	1,000
	13,274

(会費内訳)

$(100 \times 6 + 70 \times 6) \times 2$	$= 2040$
$100 \times 12 \times 4$	$= 4800$
$100 \times 6 \times 1$	$= 600$
$70 \times 12 \times 8$	$= 6720$
500×1	$= 500$
	14,660

(翌年繰越金内訳)

預金	12,939
現金	3,640
	16,579

(寄附)

池田氏	500
土田長紙	360
土田輝子	360
鷺田氏	360
	1,580

Postskribo

LEONTODO オフ着を漸く陥危におく

る。昨年12月にオ8号を出して以来、実に半年の空白を作った。意識的にそうしたわけではなく、ずるずるべつたりであった。4月中旬に出す筈であったのが又ヶ月も遅れたのは、理由はともあれ真に読者諸兄に申し訳ない。今後は発行日は取守りたい。成腐が一重量に達するまで待つということにせし、買取に臨むもたせたい。LEONTODO を半年も休刊していたのでいろいろの文句をきかされた。この事情はいわば *amo*, *fareco* の面らわれであるから、内心取り入り、且つ責任と感激をこらした。今後は所と水気にはんかい塔と塔かほいですむ

概にしたい。やがて日本大会、そして北遊道大会かくる。それまでオ10号、11号を出したい。

内容は制限してないのだから、雜誌の枚数の多い。むしろ、制作をたくさんほしい。エスペラントで探偵小説などはどうであろう。Muccuri-Umon のエスペラント訳は!? 次号はなるべく早く出す予定。*Quis revivido!* Y-3.

LEONTODO N-709

発行日	1954年6月20日
印刷・編集	山本昭二郎 小樽市生江町北ノハ
発行人	小樽エスペラント協会 北海道小樽市花園町東3-11 山本昭二郎氏宛
会費	40 jenojn